

2018/05/26

河口 龍夫 「関係—鉛の郵便」



「関係—鉛の郵便・おじぎそう」(1988) 鉛・種子、9.7x18.7cm

会期：2018年6月15日(金)～7月14日(土) 13:00 - 19:00 *日・月・火・祝日は休廊

[6月15日(金)]

- オープニングレセプション：18:00 - 20:00

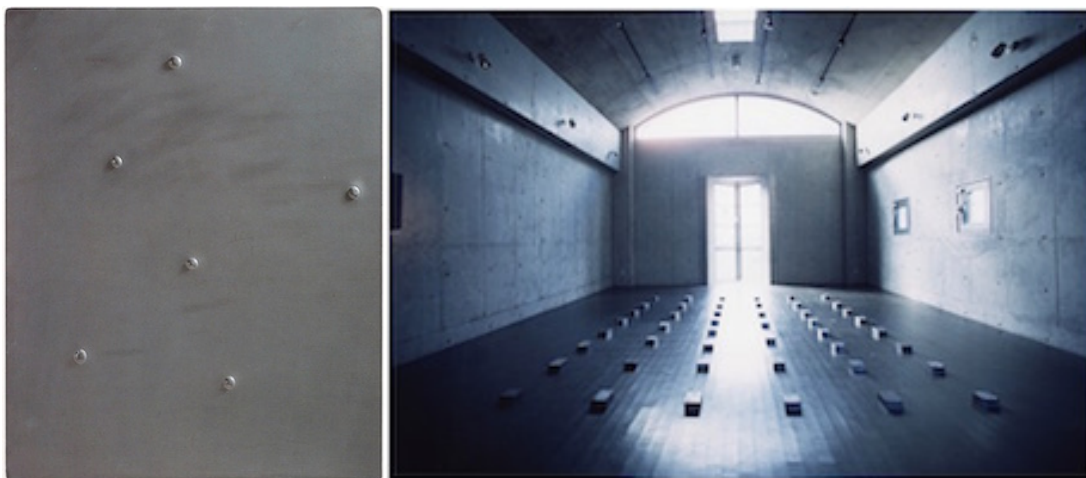
- アーティストトーク「向こうからやってくること 鉛の郵便を糧に」：18:30~19:30

会場：SNOW Contemporary / 東京都港区西麻布 2-13-12 早野ビル 404

■河川龍夫 個展「関係—鉛の郵便」のご案内

SNOW Contemporary では 2018 年 6 月 15 日(金)から 7 月 14 日(土)まで、河川龍夫による個展「関係—鉛の郵便」を開催いたします。

河川龍夫が「関係—種子」シリーズを最初に発表したのは 1982 年。当初、河川は植物の種子を銅で覆う作品を制作していました。しかし 1986 年のチェルノブイリ原発事故後、銅に代わり放射線を遮る鉛を用いるようになりました。種子を放射線から保護し永続的に残したいという作家の意思が働いたのかもかもしれません。チェルノブイリ原発事故と同年に河川は、「関係—種子」(1986)において 170 種以上の種を鉛で封印しました。その後、「関係—種子・農園」(1987)、「種子の食卓」(1988)、「関係—種子・櫛」(1988)、「関係—種子・鉛の畑」(1989)、「関係—本」(1990)、「関係—種子・花のために」(1990)、「関係—鉛の温室」(1990)などの作品を展開し、種子と最初に出会った場でもある食卓や書籍、櫛、植木鉢、ついには種子を収める温室まであらゆるものを種子と共に鉛で封印しています。



(左) 「関係—種子」 <枝豆>(1986) 鉛の板で覆われた種子の形状がレリーフ状に膨らんでいる。

(右) 「関係—種子・農園」(1987) 煉瓦状の鉛に開けられた穴に種子を詰め鉛で塞いだ作品。農園のように規則的に配置された。

この度発表する「関係—鉛の郵便」シリーズは、「関係—種子」シリーズが集中的に制作された 1988 年から 1989 年の間に 44 点が制作され、近年まで未発表だった作品群となります。本展は、良く知られている「関係—種子」シリーズを、新たな視点から再考する貴重な機会となります。是非ご高覧下さい。

この作品は〈関係—種子〉シリーズの延長線上にある作品とも言えなくもないが、郵便の持つ社会性と認知された形式をはじめから持っていることが大きな相違点である。したがって作品であると同時に郵便物に違いない。

手紙を郵送するためには封筒が必要である。封筒は通常紙であるが、この封筒は紙ではなく鉛でできていることが極めて特徴的であるとともにこの作品にとって重要なことである。また、手紙のかわりに種子が封入されていることも際立った特色である。そのことは言葉で伝えることができないことを、つまり言葉を超えたことを伝えるために、鉛の封筒に封入された種子を、あたかも「言葉によるメッセージ」を超えた、「メッセージの物質化」そのものにしようとしているかのようである。鉛の封筒に貼られた切手は、当時封書の切手代金が60円であったので60円切手が貼られている。あるいは空想の切手として鉛の切手が貼られているものもある。

この〈関係—鉛の郵便〉は実際に送付することもできるであろうが、これまで送付されたことがない。「見る郵便」となっている。〈関係—鉛の郵便〉に同封されている種子は、成長することができれば食することができる野菜や果物の他に、花の種子が含まれている。〈関係—鉛の郵便〉の送付先は、現実にはあってはならないし、送付されることがあってはならない郵便として制作された、言わば願望としての「幻の郵便」である。何故なら、命の宿る種子の送り先が紙の封筒では危険で要をなさない事態に遭遇している村や町や都市で、緊急事態が起こっているからである。原発事故による放射能漏洩事故である。さいわいなことにこの〈関係—鉛の郵便〉は使われることなく放置されていたのであった。だが、残念なことにまさかのことだが我々が暮らす国日本で3.11が起こってしまい、地球の自然を汚染してしまった。放置されていた〈関係—鉛の郵便〉を見る機会が訪れてしまったとも言えるのである。

いまだに3.11による帰還困難区域が存在する。ここにこそ〈関係—鉛の郵便〉に封印された命の種を送付する必要があるのだろう。だが、肝心の〈鉛の郵便〉を受け取る関係者である人が不在である。

やがて、未来のどこかの時点で〈関係—鉛の郵便〉は、人が住めなくなってしまった地球への「置手紙」になってしまうのではなからうか。

2018年3月1日

■河口龍夫 略歴

- 1940 兵庫県神戸市生まれ
- 1962 多摩美術大学絵画科卒業
- 1965 グループ「位」結成
- 1983 筑波大学芸術学系助教授（1991年同教授）
- 2003 筑波大学を定年退官、京都造形芸術大学大学院教授、
- 2004 筑波大学芸術学系名誉教授、倉敷芸術科学大学教授
- 現在、金沢美術工芸大学 教授

■主な個展

- 1981 「河口龍夫展」アート・フロント・ギャラリー（東京）
- 1984 「河口龍夫」寛勲美術館（ソウル）
「青」雅陶堂ギャラリー竹芝（東京）
- 1986 「今日の作家シリーズ 河口龍夫展」大阪府立現代美術センター
- 1989 「関係—種子・農園」ヒルサイド・ギャラリー（東京）
- 1990 「今日の作家たち Today's Artists III-'90」神奈川県立近代美術館
- 1991 「関係—植物」横田茂ギャラリー（東京）
- 1997 「関係—河口龍夫」千葉市美術館
- 1998 「河口龍夫—封印された時間」水戸芸術館現代美術ギャラリー
「呼吸する視線 河口龍夫 みえないものとの対話」いわき市立美術館
- 1999 「河口龍夫—関係・京都」京都市美術館
- 2000 「河口龍夫 関係—種子・生命」横田茂ギャラリー（東京）
- 2003 「河口龍夫 大地と水と植物」ヒルサイド・フォーラム（東京）
「日本現代美術 河口龍夫」釜山市立美術館（韓国）
- 2004 「河口龍夫：関係—時のフロッタージュ」名古屋市美術館
- 2005 「時間の時間 河口龍夫展」国際芸術センター青森
「河口龍夫 関係—本」横田茂ギャラリー（東京）
- 2007 「河口龍夫 見えないものと見えるもの」兵庫県立美術館 名古屋市美術館同時期開催
- 2008 「無限への立ち位置—河口龍夫の1970年代」宇都宮美術館（栃木）
< see saw seen 1973 > 横田茂ギャラリー（東京）
「DARK BOX 2008—時間をもった闇」名古屋市美術館（愛知）
- 2009 「河口龍夫展 言葉・時間・生命」東京国立近代美術館（東京）
- 2010 「河口龍夫 螺旋の時」加計美術館（岡山）
- 2011 「November 2011 河口龍夫」横田茂ギャラリー（東京）
- 2012 「光あれ！河口龍夫—3.11以後の世界から」いわき市立美術館（福島）
- 2013 < 闇のなかで そして 光のなかで > 横田茂ギャラリー（東京）
- 2014 「河口龍夫 真珠になった種子 音になった種子」ギャラリー門馬（札幌）
- 2015 「河口 龍夫展」横田 茂ギャラリー（東京）
「河口 龍夫 垂直の時間、あるいは階段時間」SNOW Contemporary (東京)
「河口 龍夫 原稿用紙、本の中に」NADiff a/p/a/r/t(東京)
「河口 龍夫 闇の時間」カスヤの森現代美術館（神奈川）
「「発芽までの待つ時間」山鬼文庫（石川）
「シーラカンズ近く」シーランカンズ 毛利武士郎記念館（富山）
- 2017 「アートドキュメント2017 河口龍夫展」金津創作の森（福井）
「河口龍夫 垂直の音 と 階段時間」ギャラリー門馬（北海道）
「Tatsuo Kawaguchi」Kayne Griffin Corcoran (Los Angeles, USA)
- 2018 「河口龍夫 時間の質 あるいは 関係—時間」横田茂ギャラリー（東京）

■主なグループ展

- 1965 「グループ<位>展」 神戸国際会館ギャラリー、
「アンデパンダン・アート・フェスティバル 現代美術の祭典」 長良川
- 1970 「東京ビエンナーレ1970 人間と物質」 東京都美術館 京都市美術館
- 1973 「第8回パリ・ビエンナーレ」 パリ国立近代美術館 パリ市立美術館
「第12回サンパウロ・ビエンナーレ」 サンパウロ美術館
- 1986 「前衛芸術の日本」 ポンピドゥー・センター
- 1989 「大地の魔術師」 ポンピドゥー・センター
- 1994 「1945年以降の日本の美術」 グッゲンハイム美術館他巡回
- 2000 「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2000」 新潟
- 2002 「大分現代美術2002 アート循環系サイト」 大分市美術館
「美術のカー時代を拓く7作家」 兵庫県立美術館
- 2003 「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2003」 新潟県
- 2004 「再考 近代日本の絵画 美意識の形成と展開」 東京都現代美術館
「痕跡―戦後美術における身体と思考」 京都国立近代美術館 東京を巡回
「グループ<位>展」 兵庫県立美術館
- 2005 「東京府美術館の時代 1926―1970」 東京都美術館
- 2007 「美術のおくりもの」 富山県立近代美術館
「水のかたち」 茨城県近代美術館
- 2009 「日本海政令市にいがた 水と土の芸術祭 2009」 新潟市
「水都大阪2009」 大阪市
「現在美術も楽勝よ。」 水戸芸術館現代美術ギャラリー
「眼をとじて―“見ること”の現在」 茨城県近代美術館
- 2010 「瀬戸内国際芸術祭2010」 小豆島（香川）
「岡山・美の回廊」 岡山県立美術館
- 2011 「これは本ではない―ブック・アートの広がり」 うらわ美術館
- 2012 「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2012」 新潟県
- 2013 「二年後。自然と芸術、そしてレクイエム」 茨城県近代美術館
- 2015 「Re: play 1972/2015 - 「映像表現 '72」展、再演」 国立近代美術館
- 2017 「奥能登国際芸術祭」 石川県珠洲市 飯田地区
「ヒックリコ ガックリコ ことばの生まれる場所」 アーツ前橋・前橋文学館（群馬）

■主な受賞

- 1974 第一回井植文化賞（文化芸術部門）受賞
- 2008 第15回日本現代芸術振興賞受賞
- 2017 第58回毎日芸術賞受賞

■ お問い合わせ ― 本展の広報にご協力賜りたくお願い申し上げます。

SNOW Contemporary

〒106-0031 東京都港区西麻布 2-13-12 早野ビル 404

tel & fax : 03 6427 2511

mail : snow@officekubota.com

HP : <http://snowcontemporary.com>

担当：石水美冬（いしみず みふゆ）